



いしはら つかさ
石原 司さん(38歳) 愛西市内佐屋町

おいしいイチゴを味わってみたい

石原さんはイチゴの栽培に携わって
から今年で9年目を迎えます。「自分
が納得できるものを作って、はじめて
消費者にも喜んでもらえる」という思
いで栽培に取り組んでいます。

あまイチゴ組合で栽培している統
一品種「ゆめのか」は、甘酸っぱさと
しつかりとした食感が特徴のイチゴで
す。品種の魅力を引き出すことを意識
して栽培をしています。イチゴは一
年間の土台となる苗の生育はもちろ
ん、収穫前日の天候やタイミングに
よっても食味が変わります。甘さだけ
を考えると、熟したものを収穫するの
が一つの手段ですが、実際に消費者へ
届いたときに柔らかすぎずはおいし
いイチゴとは言えません。また灌水に
ついては、与える量によっては食味の
バランスが崩れてしまいます。「今日
食べたときにはおいしいものが出来た
と思ったのに、次の日は理想と違うと
いう事もあります」。納得のいくイチ
ゴを育てるためには、確かな技術と丁
寧な管理が欠かせません。

農業を続けていくためには、食味だ
けでなく収量やコストなどにも意識
を向けて管理をしなければいけませ
ん。施設栽培は生育の環境を調整でき
るのが魅力ですが、やはり天候は大き
く影響します。そのため、納得のいく
栽培をするには毎年天候を先読みし
ながらの試行錯誤が必要になります。

特に今年には苗の育成時期に気温の高
い日が続く、イチゴにとっては厳しい
状況でしたが、灌水の時間や肥培管理
を調節して、よい苗を育てることがで
きたと話します。

「喜んでもらえるものを作りながら
農業を続けていくには、自分が手間を
かけるのはもちろんですが、生産者同
士の情報共有や組合での勉強会など、
周りの協力も大切です。先輩農家さん
たちに学び、後輩たちに自分の知識を
伝えながら、これからも皆で美味しい
イチゴを届けていきたいです」と今後
の抱負を語る石原さん。イチゴの出荷
は11月下旬から始まります。

あまイチゴ組合

愛西市にあるイチゴセンター
を拠点に、イチゴの栽培と出
荷を行っています。
愛知県の登録品種「ゆめのか」
の県下一番の産地で、2021
年には第51回日本農業賞の
特別賞を受賞しました。

あまイチゴ組合公式Instagramは
下記の二次元コードから

